

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	770301786		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「オークヒルズ」A棟		
所在地	郡山市富久山町ハ山田南広谷20-4		
自己評価作成日	平成21年10月26日	評価結果市町村受理日	平成22年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成15年にオープンした、グループホームであり、郡山市の住宅地の中、平屋だて二棟で開放感溢れる場である。「その人らしく、今までしてきたこと」がホームに入居後も変わらずいえるよう努め、お客様との1対1のゆっくりと関わる時間を大切に、スタッフや他のお客様との関係づくりに努めている。共に、食事の準備や洗濯等の家事を行い、共に暮らす雰囲気を感じていただき、安心して生活していただけるように支援している。
また、スタッフの人材育成にも、力を入れており、法人全体で行う研修や、ホームで行う勉強会等がある。新人の指導にはプリセプター制度をとりいれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議の定期的な開催、利用者の意向確認、事業計画、外部評価、地域行事、防災訓練、マニュアル(規則)改定などサービスの向上に向けて取り組んでいる。
2. 利用者、家族の安心と信頼のため、事業所独自に年2回アンケートを行い日常の思いを把握、年3回希望の月を設定し、ケアプランへの反映、家族や馴染みの人などとの関係継続に努めている。
3. 防災訓練を毎月開催し、火災、地震、水害訓練や夜間想定訓練を実施したり、非常食の備蓄、災害備品を常備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念の作成を行った。1つ1つ作り上げたものなので、親しみやすい理念である。掲示してあり周知している。	全職員で検討した地域生活の継続支援を理念に掲げ学習会で周知し意識の共有を図っている。	地域との交流、連携、地域貢献なども実践しているので、理念として表現されることが望ましい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたりしている。しかし、地域行事への参加など少なく、今後、ゴミ拾いや登校時の挨拶など、できることから行っていきたい。	地域自治会に加入し、市の福祉フェスティバルに参加したり、日常的な散歩、買い物などで地域の方と触れあい、近隣から野菜の提供を受けるなどの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学校の実習生の受け入れを行い、認知症の方への理解、支援方法を伝え、教育の場を提供している。 市の福祉フェスティバルに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者に実際に日常生活やイベント、避難訓練をみていただく機会を設け、意見や要望を頂いている。また、頂いた意見、要望を職員会議等で職員に伝え、サービスの向上に努めている。	定期的に2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や課題などの検討、防災訓練や行事にも参加して地域や家族の声を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のサービス相談員の方が来所し、お客様と過ごして下さっている。市で行う福祉フェスティバルにも毎年参加し、グループホームの紹介、意義を市民の方に伝えている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が委員として参加したり、市のサービス相談員が定期的に利用者の声を把握し、運営に活かされるようアドバイスを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや、勉強会を実施し、身体拘束ゼロの徹底を図っている。日々の申し送りの中で、気付かない行為、言葉使いなどでお客様に不快な思いをさせていないか、振り返りを行っている。	身体拘束の内容とその弊害をミーティングや勉強会で職員に徹底し、身体拘束をしないケアをしており、玄関の施錠も昼はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、様々な虐待の種類や日常の行動についての気づき等を、職員皆で指摘しあい、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。実際活用されている方もおり、ご家族の相談があった時には、支援している。難しい制度でもあり、今後も、勉強会等での理解に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に起こりうるリスクや重度化、看取りについてまた、医療連携体制等について十分に説明している。また、同意頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様にアンケートを行い、ニーズの聞き取りに努めている。ご家族様からは時に面会や電話の際に意見等ないか伺っている。また、意見等あった際は記録に残し、職員に周知している。	家族代表が運営推進会議の委員となったり、意見箱、お客様アンケートなどで利用者、家族の意見等を把握し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の申し送りや職員会議時、面接等で意見を聞き、対応している。必要時には法人の上司に報告し対応している。	管理者は申し送りや職員会議で意見や提案を聞くとともに、年2回個別面談を行い、組織のあり方を検討したり職員把握に努めている。必要に応じて法人へ報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個人面談で、業務目標の進捗状況や成果、普段感じていることを聞き取りしたり、毎月の勤務表作成時に休みの希望等について、管理者は随時職員と話をしている。また、運営者は管理者と随時面接しながら、職員の状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、法人の研修計画に沿った研修やグループホーム協議会の研修に参加できるよう、機会を確保している。受講した職員は会議時に報告し、勉強会を行い、情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、交流を図っている。また法人内研修を行い、他職場の職員と交流しつつ高めあえる場がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に暫定プランを作成し、職員全員がどこに着眼点を置か考えながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様へも説明を丁寧に行い、信頼関係が早く築けるよう努めている。またご家族様の要望等に聞き取りを行い、ケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時にご本人様、ご家族様から希望、要望を伺い、ケアプランに反映させている。必要に応じて相談に応じ、柔軟な対応ができるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、お互いに助け合うように、お手伝いやレクリエーションを一緒に楽しんで行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換はまめに行い、誕生会などの行事には参加していただけるよう促している。しかし、ご家族様と疎遠になりがちの方もおり、ご家族様との架け橋となれるようより、働きかけが必要である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が会いたい方がいれば、対面できる機会をご家族様と連絡調整しながら設けている。	日常的には家族と買い物やお墓参りに行くなど、外出を楽しんだり、入所前の美容院に通えるよう支援している。また、特にご本人の希望を重視した「希望の月」という行事を設け、友人・知人に会うなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の相性などを把握し、孤立しないよう職員が支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、デイサービス利用されている方と継続して交流を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の担当を決め、できるだけ希望や意向など分かり合えるよう努めている。 お客様会議にてさまざまな議題で希望を伺っている。思いをかたちにしていけるよう、より努めていく。	団らん、食事、入浴時などに利用者の声や希望、興味を聞いたり、法人で年2回、外部評価として1回アンケート調査を行い家族や利用者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様、またはかかりつけ医や美容室の方からの会話の中から情報を得て、ケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の生活ペースを大切にし、できることは継続して行っていただけるようケアプランに立案し、ご本人様のできることを大切にしている。バイタルチェックを毎日行い、身体状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りの中で、知りえた情報を共有し、今後必要となるケア等も話し合っている。 それを居室担当はアセスメントに反映させている。	毎日の気づきや家族等の思い、実施記録を基にした3ヶ月毎のモニタリング結果を具体的に反映させ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様々な声かけの仕方など記録に残している。また他の職員の記録から工夫を読み取り、実践に生かしている。介護計画の実践がご本人様の状態で難しい時には見直し、変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の変化するニーズに対応できるよう努めている。しかし、十分な要望の聞き取りや柔軟な対応までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郡山市の助成制度の情報をご家族様に伝えている。また、安心して地域での暮らしを続けられるよう、介護サービス相談員や消防と連携を図っている。地域資源の活用はまだ不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の所へ継続し受診に通っている。薬の変更などには、ご家族様の意向を主治医と相談をし慎重に検討している。	本人、家族の希望でかかりつけ医を継続受診している。家族付添い時は、書面にし症状など分かりやすく説明し、受診結果は聞き取りしている。職員付添い受診の時は電話で報告説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に状態確認を行い、健康管理を行っている。また、常に看護師は電話で対応できる状態になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入院中の状態把握に努め、医療相談員や主治医、ご家族様と連携を密にとり、早期退院に向けてやりとりが行われている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様とよく話し合い、医師、医療機関にご協力いただき、ご本人様、ご家族様が安心して納得いく最期を迎えられるよう、チームで支援する体制をとっている。終末期に対しての意向確認書を作成している。	入居時、重度化・看取りに関する指針により説明し同意を得ている。身体状況の悪化が想定される時は、医師との連携により再確認する体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や防災訓練などを行い、実践力が身に付くよう努めている。緊急時対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回あらゆる想定で、避難訓練を行っている。また地域の方に呼びかけも、運営推進会議を通して行っている。	毎月様々な災害状況を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議委員が立会って実施するなど地域協力体制の確立に努めている。非常用食料品を備蓄し、防災用具を常備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方を尊重した呼び方でお呼びしている。言葉使いにも人生の先輩であることを心がけている。個人情報には、十分に注意し取り扱っている。	行動指針を策定しており、一人ひとりの気持ちを大切に、その人にあった声かけや支援に努めている。研修会、勉強会等も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に洋服や団らんのお菓子など選んでいただいている。外に買い物に行った際もお客様に選んでいただいたり、自己決定できる場面づくりを心がけて行っている。しかし、希望を表せない方もおり、ご本人様の思いをどうくみとっていくかが、課題である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様のその日の状態によって、訴えを聞いたり、伺いながらお客様のペースで過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んでいただいている。お風呂あがりには、クリームをつけるなど、いままでしてきた生活を継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	お客様にも調理を手伝っていただくことにより、より一層、食事がおいしくなるよう努めている。	毎月、利用者会議で把握した利用者の希望メニューを取入れた献立が作成されている。利用者ができる事(下準備、盛りつけ、後片付け等)は手伝ってもらい職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を確認し、必要な際は記録を行っている。また、食べやすさなどにも目を向け工夫している。必要に応じて補食を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるところはご本人に行って頂くが、足りないところがあれば介助している。必要な方には義歯洗浄剤を使用している。しかし、自立された方すべての方が行っているわけではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様に合った介助方法や排泄用具(ハット)等をミーティングし検討を重ねている。	排泄パターン表で利用者の排泄状況を確認し尿意、便意等職員全員が共有し、一人ひとりに応じたトイレ誘導を行い、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食品や、水分量などに気をつけ、個別に運動なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々人の希望を考えながら行っている。また、1対1で話す機会を大切にし、楽しく入浴していただいている。	毎日入浴出来ることを基本に、一人ひとりの希望を聞き、体調に合わせた入浴支援を行っている。申し出により同姓介護できる体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく休んでいただくよう、リネンを清潔に保つよう努めている。日中もご本人の体調に合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更時には、変化の現れに対して記録に残している。また、薬について把握し、新人職員に対しては、薬の重要性、危険性を指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	物作りや歌、散歩など本人のお好きなことが楽しめるよう、プランに立案したりし働きかけしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と情報交換を行い、行きつけの食事処に行くことができた。ドライブや買い物なども希望に応じて行っている。	日常的な散歩、買い物等本人の思いに添った外出支援をしている。また、「希望の月」を設け、家族の協力も得て一人ひとりが思いをはせていた場所など、希望に添った支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ができる方には、ご本人・家族様の希望で自己管理でお金を所持いただき、一緒にお金を数えるなどしてお金を支払う機会を設けている。また、自己管理が難しい方にも、立て替え払いの体制を整え、なるべく自分で支払う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話があれば、気兼ねなく話していただけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物を置くなどし、季節感だけでなく、落ち着いた過ごせるよう工夫している。また、温度、湿度は毎日観察し、その時によって服や温度を調整している。	畳敷きコタツやソファ、椅子の設置により、利用者がその時々気分により居場所を選ぶことができる。利用者と職員が作成した季節感のある装飾がされ、家庭的な雰囲気が感じられる。汚れ、臭気等は不快を与えないよう換気、消臭、清掃に努めている。	リビングの汚れやトイレの臭気等が気になる意見が出され、清掃、換気の実施など意を持って取り組んでいるが更に検討改善して欲しい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所や和室、各居室など、仲の良い方で話せる場、過ごせる場を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	作っていた着物を飾ったり、使っていた棚をおいたり、仕事でいつも世話していた神を飾ったり、写真を飾ることで安心して過ごしていただける居室づくりを行っている。	大事にしているアルバム、植木、仏具等を持ち込み、部屋の棚、ベット等は利用者と家族が思い思いに配置し、馴染みの写真や自作の作品などを飾り自分の住まいらしく、生活感のある部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過介護にならないよう「自立した生活」が送れるよう環境面の考慮をし、支援している。トイレには同じカーテンをつけ、わかりやすいようにしている。		